

第13回

積丹ソーラン 味覚祭り



積丹の初夏の一大イベント、第13回「積丹ソーラン味覚祭り」が6月24日、美国漁港広場で行われ、町内外から訪れた約1万9千人が積丹町自慢の食やステージを楽しみました。

当日は気温が低く肌寒い中での開催となりましたが、積丹自慢の鮮魚や加工品に、例年どおりの長い行列ができて、即完売となった浜鍋、姉妹都市高知県香美市からのカツオ

のタタキや香り高いゆず製品などが販売され、積丹町の「食」に来場者は思わず顔をほころばせていました。

一方、ステージでは、YOSAKOIソーラン祭りの名門「平岸天神」や、毎年イベントのスタッフとしても応援していただいている「北海道大学 縁」による迫力ある演舞、プロ歌手はかまだ雪絵さんによる歌謡ショー、町の伝統芸能「正調鯉場音頭」などが会場を沸かせ、美国中学校吹奏楽部の演奏には観客からたくさん拍手が送られています。また、恒例の「豊漁豊作餅まき」や「ウニ剥きコンテスト」などのほか、今回初めて「本場カツオのわら焼きタタキの実演」が行われ、香美市の方々が高知県産の生カツオを、火をつけたわらで炙る本場の調理法を披露しました。迫力ある実演に会場からは大きな拍手と歓声が響いていました。

最後には打ち上げ花火が夜空を鮮やかに彩り、今年の初夏の祭典の一日が終わりました。

平成30年 例大祭

今年も7月1日の入舸稲荷神社・積丹神社・野塚稲荷神社を皮切りに町内各地区で伝統ある例大祭が行われ、やっこ行列や神輿、山車などそれぞれ特色あるお祭りを地域住民やこの日のために帰省した人たち、さらに美国神社祭典には、札幌大谷大学の学生が参加して盛り上げました。

悪天候の中での開催となった地区もありましたが、威勢の良い掛け声や歓声が飛び交っていました。

※幌武意地区は市街地の神輿渡御がありませんでした。



▲ダイドードリンコ(株)金澤東北第一営業部長(右)と松井町長

“天狗の火渡り”が「日本の祭り」で撮影

美国神社例大祭の天狗の火渡りが、清涼飲料メーカーのダイドードリンコ(大阪府)「日本の祭り」に選定され、その選定証の伝達が7月5日、総合文化センターで行われました。

これは、地方の伝統的な郷土の祭りを全国へ発信・応援しようとした企画で、今回火渡りが取材の対象となりました。その模様は、8月5日、HBC北海道テレビ放送で放映されます。